

道路政策の質の向上に資する技術研究開発 ～今後の研究課題の募集に向けて～

1. これまでの経緯等
2. 今後の研究課題の募集に向けて

1. これまでの経緯等

【新道路技術会議における研究の募集について】

- ▶ 平成16年の設置から、6年が経過。
- ▶ 3年分の採択課題(12件)については、既に研究が終了。
 - 道路政策を10の領域に分け、募集を実施
 - 従来の募集では、領域ごとにそれぞれが想定する内容を募集要領に記載し、求める研究のイメージ等を伝達
(特定の分野や内容の研究について、特に募集することはない)

これまでに実施した募集を省みると、以下の課題があるものと認識。

- ・国(国総研・土研を含めて)が、募集時点における技術研究開発の状況(当該時点において特に求めている技術研究開発など)を十分に整理していない
- ・また、道路政策の技術研究開発として、学の知恵や産の技術に期待する分野・内容等も明確に示していない

➡ 採択から事後評価までの一連の流れが概ね確立したところであり、平成23年度の募集にあたっては、上記の課題に的確に対応するとともに、前回会議(平成22年7月6日開催)において委員からご指摘をいただいた事項も十分に踏まえることとしたいと考えている。

<新道路技術会議委員からの主な指摘事項>

- ・基盤的な技術の研究を促す仕掛け
- ・最終段階(実用化前)で止まっている研究の支援
- ・小さくてもチャレンジングなアイデアの募集
- ・一次審査への委員の参加 など

2. 今後の研究課題の募集に向けて

【整理が必要と考えている事項】 →速やかに実施する予定

- ① 現在の道路行政において、必要としている技術研究開発の分野・内容の整理(各領域ごと)
- ② ①のうち、産の知恵や学の技術に期待する分野・内容等の明確化

【研究課題の募集における対応の方向性(案)】

- ① 産の技術や学の知恵に期待する分野・内容等を明確化した上で、募集を実施
- ② 産や学の気づきやアイデアについても募集し、各領域で担当する技術研究開発の分野・内容を踏まえて、採択の可否を判断

【ご意見を賜りたい事項】

- ・本技術研究開発制度への期待感(本スキームのアピールすべきポイント)
- ・産や学の応募する立場から見た競争的研究資金制度のポイント
- ・長期的視野での技術研究開発に対する支援のあり方(成果の活用方策を含めて)